

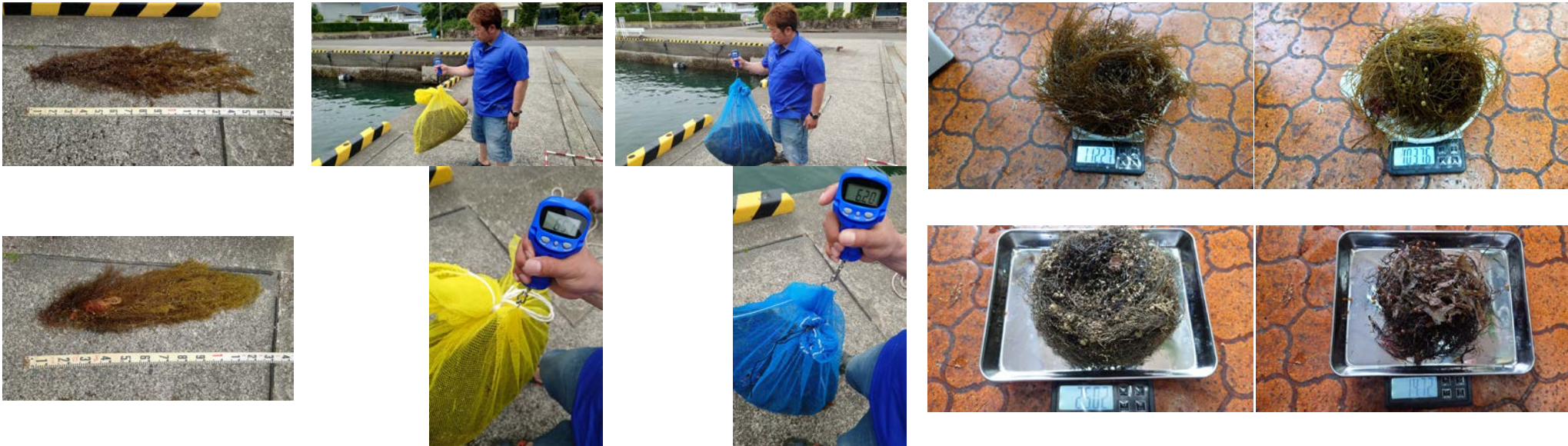
2025年度ブルーカーボン量（湿重量、含水率、P/B比）
引本浦 春藻場（ガラモ場）

【対象面積の海藻類について】
マメタワラが優占している。
その他にシラモ、ツノマタ、フクロノリ、アントクメ、ツカサアミなどが見られた。

【湿重量の計測】
ツボ狩りは、対象面積の海藻類を代表する海藻が生育する場所（採取場所の生育被度100%）において1m方形枠を設置し、枠内の海藻を採取して重量（kg）を計測した。

【含水比の算出】
採取した海藻のうち一部の海藻を十分に乾燥させ、重量を測定して乾重量/湿重量より含水率を算出した。

【P/B比の算定】
第3版磯焼け対策ガイドライン等の文献および採取した海藻の高さからP/B比を算定した



※写真は袋重量0.20kg含む

採取した海藻の状況

単位面積当たりの湿重量：					
ダイコン島St.1	6.51-0.20 = 6.31kg/m ²			湿重量	⇒ 乾重量
弁天島St.1	6.20-0.20 = 6.00kg/m ²	6.155 × 10		112.27 g	⇒ 25.02 g
平均	6.155kg/m ²	= 61.55	t/ha	103.76 g	⇒ 14.72 g
				含水率：平均81.76%	

【確実性評価について】
ツボ狩り時において、全面をヘラで綺麗に剥ぎ取ってしまうと翌年に生えづらい為、ある程度の長さを残している。
そのため、湿重量及び含水比、P/B比に対して過小評価を行っており、吸収係数に係る自己評価を100とする。

【マメタワラ】
P/B比：1.5